

平成 30 年度 自己評価及び学校関係者評価結果

平成 31 年 3 月 11 日

(学)長橋学園 杉田幼稚園

1、幼稚園(杉田幼稚園)の教育目標

教育基本法及び学校教育法を基本として、幼稚園教育(幼児教育)を推進し、豊かな心を持つ人を育成することを目的とし、次の教育目標を定める。

教育目標:「明るく 元気に 頑張る子」

- ・物を大切にする子 ・思いやりのある子 ・お友だちとたくさん遊ぶ子
- ・お話をよく聞くことができる子 ・思ったことがはっきり言える子 ・考える力のある子

2、平成30年度の事業計画及び重点目標

事業計画～「緑いっぱい自然の中で輝く学園」として豊かな心が育つ保育の推進

- ① 「有徳の人」づくりに向け、園児一人一人を大切に、生き活きと活動できる場の設定
 - ② 園児達の発達段階に応じた援助に努め、自立の基礎を培うため、園児達のモノづくり体験の推進
 - ③ 思いの伝え合いの場づくりを目指し、自立意識の芽生えを育む活動ができるよう教育課程の工夫
 - ④ 小学校への接続が円滑にできるよう、保護者や地域と共感し合い、教育機関等との連携強化
- 以上の事項を重点として、教育内容のさらなる向上に努める。

3、評価項目の達成及び取組状況

< A:十分達成されている B:達成されている C:取り組まれているが、成果が十分でない

D:取り組みが不十分である>

評価項目	自己評価		学校関係者評価	
	結果	内容・理由等	結果	内容・理由等
1、保育内容 (1)保育の 計画性	A	、園の教育理念や方針の許に、新教育幼稚園教育要領施行に合せ園全体・各学年、各クラスの保育計画(指導～週案・日案)を立て、園児一人一人の発達段階に応じた保育に努めている。全教職員で環境構成を軸にした教育課程を編成した。	A	幼稚園教育要領の改訂項目を把握し、杉田幼稚園の目標に沿って、教職員が保育を計画的に執行し、日・週案やその反省文を園長等が適時適切に目を通し、助言等を行っている旨を、園長の事業報告からも伺い、園全員での保育への取り組みを高く評価する。
(2)保育の あり方・幼 児への対応	B	在園児とは、保護者からの的確な情報を得て、毎日の生活を通じ、園児との気持ちをしっかり受け止めることが大事であり、声掛けやスキンシップを心掛けている。 園児達の個性がさらに伸びるよう、教職員全体で、園児達を共通理解できるよう情報交換しながら教育実践を進めていきたい。		また、若手教員が多くなり、自己の活動に追われ、全体を観る眼が欠けていることの反省が自己評価の記述から伺われるので、改善への努力を期待する。 園児達の成長・発達に向けて、教員相互の連絡・連携を確実に実行し、保護者の信頼を得て、一人一人が自信を持って、日々の教育活動を実践されることを願います。

2、保育者としての資質・能力	B	<p>本園教員がお互いの立場、役割を把握し合い、対話を大事にしながら、自己の専門性を高め、保育に自信を持って取組めるよう、公開保育などでの指摘を参考にしながら研鑽を積んで行きたい。</p> <p>また、若い教員が多いので、先輩の立場にある者は、後輩指導に意を用いながら、日々の保育活動に邁進して行きたい。</p>	A	<p>教員の年齢層が若くなり、先輩教員がリーダー性を発揮し、個々の教員の力量向上に努められて評価できる。</p> <p>今後さらに、新幼稚園教育要領に基づく環境構成をしっかりと組み立てができるよう研鑽を積んで頂きたい。</p> <p>むとともに、教育課程の充実を目指した研修計画を充実させ、特に、公開保育も開催されており、他園を参考に、教員全体の質の向上を目指して欲しい。</p>
3、保護者への対応	A	<p>園の教育目標の一つである、「保護者や地域との共感し合う教育活動」を展開しており、参観日には、園児と保護者との共同製作を実践している。また、保護者面談の日を定めるなど、保護者と教員の連携を深めている。</p> <p>情報交換のお便り帳では、写真や絵柄を挿入する等工夫をして、家庭との共通理解を実践している。</p> <p>また、子育て支援として「たまごちゃん教室」を年14回開設し、未就園児と在園児との交流も進めている。</p>	B	<p>保育参観は、年4回設定され、親子共同で、夏祭りの提灯造りは画期的であって、たまごちゃん教室なども保護者や地域の人々と教員のコミュニケーション確保に繋がる活動として評価する。</p> <p>保護者からの子育てに関する相談（要援助児等）も多くなって、専門的知識も必要となるので、自身の質的向上に努められたい。</p> <p>このためには、協会の「子育てカウンセラー」との連携を密にし、地域の相談機関や保護者とも一体となった体制づくりを期待する。</p>
4、地域の自然や社会とのかかわり	C	<p>園・家庭・地域が一体となった教育を進めるため、園行事の「すぎのこフェスタ」や「運動会」に区民を招待し、地域との交流が進んでいる。</p> <p>特に、地域からの要請で、敬老会へ年中児が参加し、地域の方々から熱い応援を頂き、年長児は、「茶道教室」を開き、地域の茶道の先生の指導を仰いでいる。</p> <p>今後は、教員自身が地域の歴史や神社等に対する知識を深めるとともに、地域の小学校との連携などが、課題（近隣幼稚園との交流会を実</p>	B	<p>園長の事業報告を伺い、学園行事への地元民の参加、年長児の鼓隊が「市消防フェスタ」への出演など、地域住民との触れ合いは、園児達の人づくり将来の社会への貴重な体験である。</p> <p>また、カレーづくり・餅つきを始め、さつま芋やバケツ稲を育てる体験にも地域の協力があり、教員との協働活動の仕組みは、素晴らしい園活動である。</p> <p>教員が一丸となって、地域の歴史や神社の知識も深めて行く姿勢が自己評価に表われており、今後、各教員が率先して実行することを期待する。学</p>

		施)となる。		校関係者評価にも、「モノづくり体験は、子どもの将来に意義ある。」と記述されている。
5、研修と研究	B	<p>年間を通じ、園全体で、研修テーマ(要援助幼児への生活指導のあり方、教育課程への取り組み等)を設定し、各種の研修に参加したが、研修後の自己研鑽に欠けている旨の反省が多かった。</p> <p>今年度は、東海北陸教育研究大会(静岡開催)への参加や地区の公開保育の実施、園児の近隣幼稚園との交流会等の取り組みも積極的に行った。</p> <p>今後、小学校との連携や、他幼稚園との相互交流研修等にも挑戦して行きたい。</p>	B	<p>公開保育など、他園との交流が実施され、教育者としての資質向上に努められることを高く評価する。</p> <p>これからは、日常勤務の中でも研修機会を増やし、その成果を教員間で分かち合うなど一層の努力を願いたい。</p> <p>小学校との幼小連携の機会を創るとともに、自己評価に掲出されている他の幼稚園との共同研究・研修など幼小連携の推進は、今後、是非とも進めて頂きたい事案である</p>

4、重点目標等に対する総合的な評価結果

結果	内容・理由等
A	<p>年間を通じ、教職員一人一人が、園長等の指導の許で、園全体の保育計画及び月間・週間指導計画の策定に参画すると共に、自己の保育活動に生かす体制づくりを進めており、高く評価することができる。</p> <p>学園行事(運動会、すぎのこフェスタ、カレーづくり等)における地域の方々との協働や地域の高中生との音楽会を通じた交流など、富士市と富士宮市の境に位置した当園の立地を最大限に利用した保育活動は、今後も継続されることを切望する。</p> <p>地元の農業や製紙業などの資源を活かした学習やモノづくりへの参加、さらに富士山の日・おやこんぼの日等を活用する生活体験など、園児の豊かな心を育む上でも効果があった保育活動と思う。自己評価の課題となった教員自らが地域(歴史、地形、神社等)を学ぶ機会を、是非増やして頂きたい。さらに、園と家庭が連絡を密にし、保護者参観日の内容を工夫するなど、よりよい未来の子ども達を育てる環境づくりを期待する。なお、ホームページは、随時見直しを行い、幼稚園を多くの方に理解いただけるよう、内容も一層充実されることを望む。</p>

5、今後取り組むべき課題

課題	具体的な取組方法
1、教育計画に基づく地域、保護者と共感し合う教育活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の自己評価結果を活かせるように年間計画を立て、日々の保育を常に振り返り、見つめ直ししながら、新しいよりよい保育活動を進めていく。 ・杉田幼稚園から地域への情報発信を増やし、特に、学園の主要行事への地域住民の招致を回覧板やHPによって啓発し、保護者や地域等に

<p>2、資質向上を目指した研修の充実</p>	<p>杉田幼稚園をアピールするとともに、教員自身も地域の歴史、地形、神社を学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新幼稚園教育要領等を踏まえ、要援助児への対応及び地域や保護者との共感し合える新たな課題等をテーマとした教職員の研究活動を充実するとともに、その成果を園内研修で発表するなど、研究・研修体制を強化する。 ・地域の小学校や幼稚園との連携を深め、教職員間の交流や共同研究等を行うとともに、教職員のチームワークの良さを、園活動の中で園児達に見せ、伝授していくことで、楽しい園生活を創るよう努める。
<p>3、学園の防災・危機管理等の徹底</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「地震等防災対策マニュアル」や「危機管理マニュアル」に沿い、家庭との連携・防災機関等との連絡体制の確立を図り、的確な避難訓練等を実施し、園内遊具の点検・改善整備も行い、防災・危機管理教育を一層充実する。

6、学校関係評価者

(参加者)

- ・保護者(杉田幼稚園PTA会長)
- ・地域住民(地区在住)
- ・学識経験者(地区生涯学習推進会副会長)

1.財務状況

【資金収支計算書】

科目	決算額
収入の部	
学生生徒等納付金収入	16,295,758
寄付金収入	140,868
補助金収入	47,941,500
資産売却収入	-
不随事業・収益事業収入	10,491,622
受取利息・配当金	27,153
雑収入	2,206,464
前受金収入	700,000
その他の収入	9,986,546
資金収入調整勘定	-2,524,500
前年度繰越支払資金	19,358,612
収入の部 合計	104,624,023
支出の部	
人件費支出	50,576,976
経費支出	29,604,661
借入金等利息支出	-
施設関係支出	-
設備関係支出	759,240
資産運用支出	309,620
その他の支出	4,231,022
予備費	-
資金支出調整勘定	-1,453,500
次年度繰越支払資金	20,596,004
支出の部 合計	104,624,023

【貸借対照表】

科目	本年度末
資産の部	
固定資産	293,763,878
流動資産	22,440,504
資産の部 合計	316,204,382
負債の部	
固定負債	526,600
流動負債	2,352,726
負債の部 合計	2,879,326
基本金の部	
第1号 基本金	359,906,642
第4号 基本金	6,000,000
基本金の部 合計	365,906,642
翌年度繰越収支差額	-52,581,586
純資産の部合計	313,325,056
負債及び純資産の部合計	316,204,382

【事業活動収支計算書】

科目	決算額		
教育活動収支	収入	学生生徒等納付金	16,295,758
		寄付金	140,868
		補助金	47,241,500
		不随事業	10,491,622
		雑収入	2,206,464
		人件費	50,696,976
	支出	経費	35,376,502
		徴収不能額等	-
		教育活動支出計	86,073,478
		教育活動収支差額	-9,697,266
教育活動外収支	収入	受取利息配当金	27,153
		その他の教育活動外収入	-
	支出	借入金等利息	-
		教育活動外収支差額	27,153
経常収支差額		-9,670,113	
特別収支	収入	資産場規約差額	-
		その他の特別収入	700,000
		特別収入計	700,000
	支出	資産処分差額	-
		その他の特別支出	-
特別支出計	700,000		
基本金組入前当年度収支差額		-8,970,113	
基本金組入額合計		-759,240	
当年度収支差額		-9,729,353	
前年度繰越収支差額		-42,852,233	
基本金取崩差額		-	
翌年度繰越収支差額		-52,581,586	
事業活動収入計		77,103,365	
事業活動支出計		86,073,478	

【財産目録】

科目	金額
基本財産計	239,047,518
運用財産計	77,156,864
資産の部 合計	316,204,382
固定負債計	526,600
流動負債計	2,352,726
負債の部 合計	2,879,326
差し引き純資産	313,325,056
正味財産の部合計	316,204,382

平成30年度 事業報告

(学) 長橋学園 杉田幼稚園

1、学校法人の実績

昭和54年3月15日に設立以来、40年の歴史を踏まえ、“豊かな人間性の基礎を育み、健康で明るい素直な子どもの育成”と地域に根ざした幼児教育機関の役割を果たし、学校法人として、地域に役立つ幼稚園に向け、安定した経営を行うことができた。

2、就園児の実績

区 分	年長（はと）	年中（ひばり）	年少（ひよこ）	満3歳児（もも）	合 計
学級数	2	2	2	1	7
園児数（人）	43（卒園）	44	35	10	132

〈平成31年3月現在〉

3、研修の実績

園内研修を深める一方、県私学振興協会等の外部研修にも積極的に参加させ、職員の資質向上に勤めた。教員の園外研修への参加延べ人数は、37人を数え、公開保育の実施園として教育活動を富士宮市私立幼稚園協会傘下の教員に公開した。また、園長等研修会、免許更新研修及び共済事務研修等にも参加した。

4、教育活動（行事）の状況

「明るく元気に頑張る子」を園の目標に、① 園児一人一人が、生き生きと活動できる場づくりを実施した。② 家庭、地域社会及び幼稚園が一体となり連携を深め相互に理解し、共感しあえる園づくりとしてバケツ稲作体験教室（苗植付、稲刈、脱穀、餅つき）、東高生秋の音楽会、茶道体験教室等を行った。また、この一環として「おやこんぼ事業」（振興協会主催）を推進した。③ 自然環境を活かし、食育・生活体験学習（カレーづくり、落花生・芋掘り）を推進した。④ 小学校への接続が円滑にできるよう生活指導（交通安全教室）を実施し、幼幼連携交流会を始めて行った。なお、地域の要望等もあり、満3歳児保育を実施している。

〈主要学園行事の実績〉

年 月	行 事	年 月	行 事
30.4	・入園式、始業式・内科検診、春の遠足（日本平動物園）	30.10	・入園受付、さつま芋と落花生堀、稲刈りと脱穀、秋の音楽会（宮東生）、花育、だし育
11.5	・歯科検診、保育参観、バケツ稲植付、落花生と芋種まき体験	11.11	・防災訓練（引渡し等）、消防フェスティバル鼓隊演奏 ・生活発表会
11.6	・防災訓練、子育てフェア、カレーづくり体験、土曜参観、	11.12	お店屋さんごっこ、餅つき体験、クリスマス会、終業式
11.7	・すぎのこフェスタ、こどもの国水遊び、花火教室、終業式、	31.1	・始業式、雪見遠足、まゆだまづくり（飾り）、宮バス、用品販売

	東海北陸研究静岡大会参加		はと組お別れ遠足（サーカス）
11 8	・夏期保育(流しソーメン、スイカ割)、中学生職場体験受入、実技研修参加、公開保育実施園	11 2	交通安全教室、豆まき、茶道体験教室、保育参観、縄跳び
11 9	・始業式、運動会、防災訓練、稲刈り、杉田敬老会出演	11 3	・ジャガイモ種植、お別れ遠足、お別れ会、卒園式、終業式

5、施設・設備整備の状況

- ・園児の安心、安全確保のため、設備（生活水、浄化槽、ガス機器、報知機）の点検を実施するとともに、遊具等点検（年9回：園内、1回：外部）を行い、改善整備を図った。
- ・施設設備に関しては、富士宮市の補助金を活用して、「園庭（運動場）改修整備」を行い、「庭木」の剪定、「防犯カメラ設置」を実施した。

6、管理・運営関係の実績

- (1) 預かり保育～2 時間 (2) 通園バスの運行 (3) 園庭開放事業（子育て支援「たまごちゃん教室」事業）(4) エコ教育の推進と古紙回収 (5) 教育実習の受け入れ (6) P T A活動の充実 (7) 防災訓練の実施（避難・引き渡し・消火器使用訓練等）
- (8) 教育課程の充実 (9) 「杉田幼稚園」ホームページ」の更新 (10) 私立幼稚園教育研究東海北陸静岡大会へ参加 (11) 学校評価の徹底を行った。